共　通　事　項

※特記なき限り下記を共通とする

記　号

本表は建具表における凡例及び共通指定事項を示す。

建具符号
建具別仕様号

付1 自：自動ドア、常開：常時開放式、常子：常時開放子扉付
付2 特：特定防火設備、防：防火設備、網：網入ガラス
付3 SAT:セミエアタイト、AT：エアタイト、PAT：完全エアタイト、UC：アンダーカット h=30、
G*：ドアガラリ(*はガラリ高さ種別)
（気密性区分　SAT：A-3等級、AT：A-4等級、PAT：AT を上回る気密性）
付4 E：電気錠、AE：自動ドア電気錠(ﾊﾞﾆｯｼｭﾎﾞﾀﾝ機能付)、ECR：ｶｰﾄﾞﾘｰﾀﾞｰ連動電気錠、
AECR：自動ドア電気錠・ｶｰﾄﾞﾘｰﾀﾞｰ連動(ﾊﾞﾆｯｼｭﾎﾞﾀﾝ機能付)、SS：スイッチストライク、
L：ラッチング、IL：インターロック、感：感知器連動

スチールドア建具見込寸法の目安（mm）

ドア見込	W max	H max
40	1150	2400
50	1400	2900
60	2000	3500
80	2500	4500

＊認定防火扉は認定仕様による
＊子扉付きは特記による

※　耐風圧Ｓ－４等級の一般ドア（片開き）の場合。風圧力・遮音性能等により調整する。

形　状

（２）　ＳＤのうち、点検扉は片面フラッシュ戸とする。（姿図記号Ａ、ただし防火区画、SAT、AT扉は除く）
（３）　枠見込み寸、大枠はH_1=220、小枠はH_1=100を標準とするが、壁厚等により調整する。
（４）　三方枠床仕上見切寄棚はなしとし、床仕上が異なる場合は、K-1とする。
（５）　外部建具で上部に庇がない場合、上枠端りに雨除けを設ける。雨除け及び枠端りシーリング材充填。
（６）　ドアガラリはノービジョンタイプ、材質は扉と同材とする。
~~（７）　ガラリは、内部はＡ型とし、外部はＢ型とする。~~
（８）　排気ガラリには、汚れ防止のため左右竪枠迄（同材にて巾60mm）を設ける。（ガラリの羽の裏面とする。）
（９）　ダクト接続のない外部ガラリは、防虫網（SUS304、1mmメッシュ）付とする。
　　また外部からの吹込み防止として、高ボアルミパネルを設置する。
（１０）ダクト接続のガラリは、内部側にダクト接続用の四方アングルを全周に設置する。
（１１）機械吸気に使用する外部ガラリは、防鳥網（SUS304、10mmメッシュ）付とする。風圧なども考慮し力骨などで補強する。
（１２）教員室のポスト付建具については４４封筒が入る寸法とすること。
　　・ポストロ（有効 W260×H40）SUSHL　・ポスト受（W360×H405×D100）St焼付塗装

仕　上　げ

（１）　ＬＳＤの召合わせおよび縦小口板は（・ステンレス製色み板　※鋼板製（鏡板巻込み））とする。
（２）　気密扉のクロロプレンスポンジゴム取合い部はステンレス鋼板２．０mmとする。
（３）　ＷＤの枠は特記なき限りスチール製+不燃化粧フィルム貼とする。
（４）　鋼製建具面のクロス仕上又は塗装下地用クロスEP仕上は、隣接する壁と同材とする。
　　スチール枠の見えがかり部はFB－t4.5加工とする。
（５）　フロアヒンジの表面は床材が石の場合、石仕上とする。
~~（６）　透明ガラス大寸建具に衝突防止金物（SUS-H程度、SUS304）を設置する。（W900程度　取付片高さは現場指示）~~
（７）　飛散防止フィルム：共用部の出入口扉、通路、および吹抜に面する部分等に単板ガラスを使用する場合は、
　　飛散防止フィルムを貼ること（吹抜に面する場合は、吹抜の反対面とする）。
（８）　特記無き限り　ＳＳはスチール部ＥＰ－Ｇ仕上とする。
（９）　容器は、特記なき限り SUS２．０　ＨＬとする。
（１０）容器は、特記なき限り 内部：Ｋ１（レベル差有り時はＫ２）、外部：Ｋ３とする。
（１１）鋼製建具の塗装は、外部：ＦＵ－ＢＥ、内部：ＳＯＰとする。

建具金物

（１）　ドアクローザおよびフロアヒンジは建具表による。なお、ドアクローザの取付けは室内側を原則とする。
（２）　壁当たりとなる開き戸は壁面からの逃げ寸法を１００mm程度とし、戸当たりを設ける。
　　戸当たりは原則として床付けとし、巾木付とする場合は監理者と協議する。
（３）　排煙窓のクレセントおよび操作レバーの位置は床面から８００以上　１，５００mm以下とする。
（４）　扉の握り玉、把手類は原則として床面から１，０００mmとし、押板類は１，１００mmとする。
（５）　ＡＷおよびＡＣＷのオペレーター装置は、原則隠蔽タイプとする。
（６）　錠のバックセットは、握り玉の場合は100mm、レバーハンドルの場合は76mmを標準とする。
（７）　防音扉H=1500以上は3点蝶りとする。
　　遮音性能は建具み掛の総合性能で、(AT-1)はJIS TS-35等級程度、(AT-2)は同30等級程度、(AT-3)は
　　同20～25等級程度とする。気密材に接する部分にはSUS304材を使用する。
（８）　把手：（SUS42φ　鏡面仕上げ　H=ドアH寸法（ロングタイプ）程度）
　　プッシュプル押棒：（SUS42φ　H=800（ミドルタイプ）、タッチシステム対応型　程度）。
　　ドアサイン（押・引文字プレート）：（SUS　ヘアライン　35φ×ｔ2　程度）。
　　枠ガード兼用手摺（S17）：シブタニ　DTE100414　同等品程度。
（９）　レバーハンドル：（SUS製　礼仕上　電気錠対応品　程度）。
（１０）シリンダー箱錠：美和ケースロックWKS 同等品以上。　握玉：（美装和Ｐ型 同等品以上）。
（１１）スイッチストライクは美和MH-G（通電金物も含む）又は同等品以上とする。
（１２）電気錠：美和AUTA-2（または同等品以上）を標準とし、停電時解錠、火報連動解錠、遠隔操作(中央監視室)による解錠とする。
（１３）電気錠通電金具は形込形とし、通線後の扉の取り外しが容易なように金具の近接部にてリード線のアタッチメントを取り付けること。金具本体もビス止めとし、取り外し可能な取り付け方法とすること。
（１４）ステンレスドアの框押縁はダブルとし、ビス止め押縁の上キャッピング押縁を付ける。
（１５）常時開放式防火戸　オートヒンジ（内蔵式）吊りとし、煙感知機連動装置一式は本工事とする。
（１６）常時閉鎖式防火戸　両開き及び親子開きは、ドアチェック２個及び順位調整機付（枠内蔵タイプ）とする。またドアガラリのある場合はヒューズダンパ付とする（確認書査機関に確認のこと）。
（１７）ＬＨＤの初期開放力はＦ重さ５０kgの場合、６Ｎ程度とする。
~~（１８）ＬＨＤの初期開放力はＦ重さ５０kgの場合、６Ｎ程度とする。~~
（１９）防火シャッターは、避難時停止装置付きとする。
（２０）施錠方法については、原則共用側(廊下等)を「かぎ」、室内側を「サムターン」とする。
　　建具製作段階で一覧資料を作成の監理者と協議し承認を受けること。
（２１）建具金物は、表中に特記なき限り下表による。

	一　般　扉	特記なき限り適用する建具金物
外部	自動扉（引戸）	引戸用本締り錠
	一般扉	丁番　　シリンダー錠（片面サムターン）
内部	引戸	引戸レール（引き残しストッパー付　引残しサ法100）　・錠なし　・カマ錠　※ロッド錠 把手（内外セット）：　ユニオンＧ５００（L=600　SUS HL）程度
	扶体不自由者用便所（自動式引戸）	・駆動・制動装置（ストップ付）　・ステンレス製振れ止め軸 ・表示装置　・非常開装置
	常時開放式防火戸	埋込型把手
	点検扉	点検扉用スプリングヒンジ　　面付シリンダー錠 プッシュ式つまみ
	自由開き扉	ＦＨ（横スプリング型）　　シリンダー本締り錠
	気密扉(機械室等)	ピボットヒンジ　グレモン錠（ハンドル：　※常時取付　・着脱式）

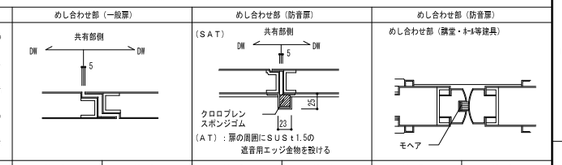
その他

（１）　外部に面する面一サッシュは二重シールとする。
（２）　両引き自動ドア及び片引き自動ドアは、縦枠との間に指を挟まない構造とし、隙部は原則として80mm程度を引き残す。
（３）　自動ドアには、安全ビームセンサー（FL-600）を設置する。
（４）　鎮負者、専門業者との運名の施工要領書、性能書を提出し、監理者の承認を受ける。
（５）　アルミ建具取付用モルタルは無塩砂の防水モルタルを使用する。
（６）　防音扉：所要遮音性能が満足されない場合には、監理者の指示によりすみやかに改修する。
（７）　アルミ窓及びカーテンウォール
　・アルミ材はすべて型材とする。
　・ガラス回りシール目地巾は、内外共5mm程度確保すること。
　・アルミ型材及びガラス部分共、原則として結露を発生させないよう必要な性能を確保する。
　・外部に面するＡＷは結露受及び水切を設ける。また水切には汚垂れ防止の為、小口立上りを設ける。
　・サッシ下枠（段窓、カーテンウォール無目材等含む）には必ず結露受を設け、両端2箇所に排水孔（逆流防止弁付）を設け、結露水を排出できる機構とする。
　・結露水の排出先は原則外部とするが、寒冷環境（寒冷地又は超高層ビル等）で外部に排水すると氷結し落下の危険性がある場合は、内部に排水パイプを設置し、設備ドレーン配管等に接続する。
　　（但し、1階以下の部分を除く）
　・シール破断による浸入水についても、上記と同様とする。
　・建物の構造上、上記の排水機構を設置できない部分については、監理者と協議する。
　・セッティングブロックは硬質（ショア硬度90°のネオプレンゴム）とする。
　　ガラススライドをスムーズにさせるため、セッティングブロックの上にテフロン等を敷く。
（８）　サッシ廻りは防水モルタルトロ詰め(地下階のみ)の上、断熱材（発泡ウレタン）充填。
（９）　自動扉一扉召し合わせ部及び方立廻りの圧縮方向に気密材（モヘア）付。
（１０）耐風型シャッター：風圧力300kg／m2で脱落のないこと。
　　風圧力240kg／m2でのたわみは、操作に支障のない範囲とする。
（１１）沿岸地域（海岸から1km以内）の外部に面する建具は、枠、扉下地共SUS304とし、強風対策としておりの止め防止付戸当たりを設置する。又、防音扉AT-2以上の性能を確保し、扉内部にはグラスウールを充填する。
（１２）防火区画廻りの扉枠内に耐火材充填の事。
（１３）扉の開き角度については建具製作図段階で監理者と協議する事。
（１４）構造スリットを設けた部位の建具固定金具の取付は、構造スリットに適した取付方法とし下記を基準とする。

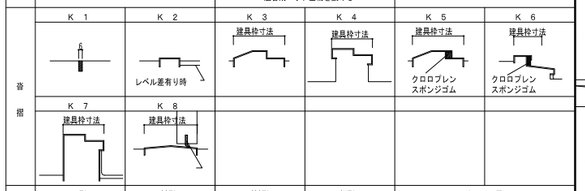
種　別	H<限界高さ	H≧限界高さ
はめ殺し窓	※下部固定、上部スライド	※上下固定、縦固定なし
開閉窓	※上下固定、縦固定なし　・下部固定、上部スライド	

　　但し、限界高さとは階高の5/12とする。
（１５）雨がり部に用いる合わせガラスの中間膜は自潤しない耐水性・耐久性のある膜を使用すること。
（１６）断熱ガラスフィルム、遮光フィルム：３Ｍ/アンバー3SLE/LE35AMAR 程度
（１７）アルミ断熱複合パネル：積水樹脂プラメタル(株)/ハイエースパンPP18 程度

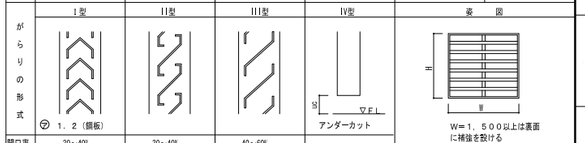
めし合わせ



容　器

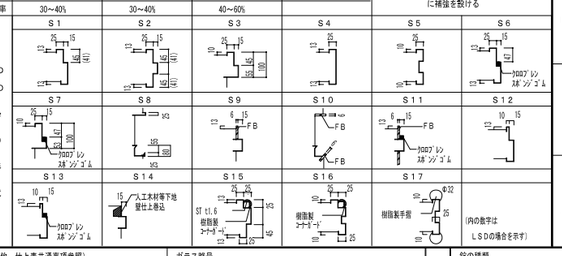


がらりの形式

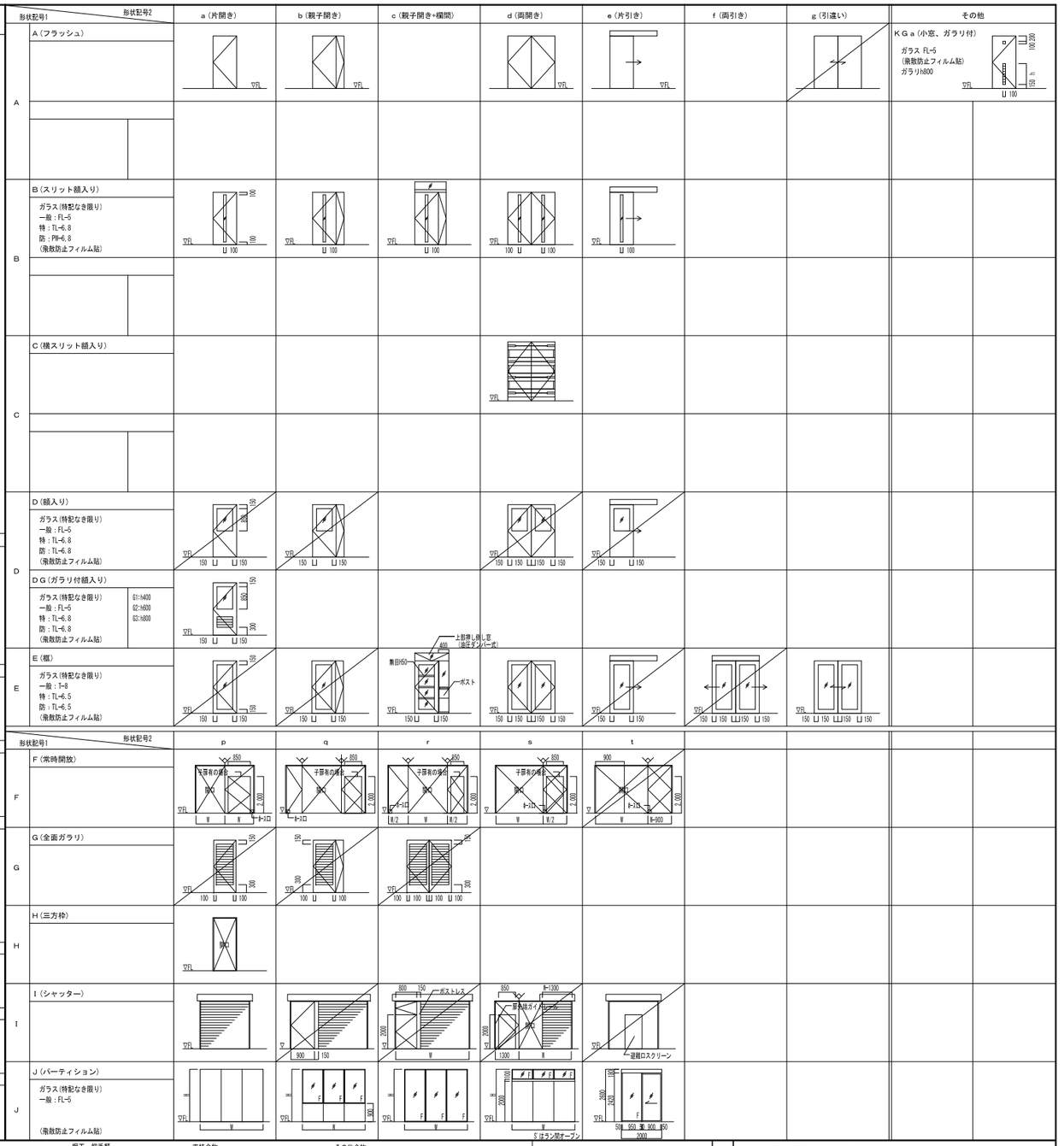


開口率　30～40%　30～40%　40～60%

SDLD枠の形式



形状記号1 ／ 形状記号2



SD

SD		AW	アルミ製窓	NHD	鉛入鋼製引き戸
FSD	鋼製防火扉（戸）	ACW	アルミ製カーテンウォール	FWD	木製防火扉（戸）
SW	鋼製窓	AD		WD	木製扉（戸）
SCW	鋼製カーテンウオール	AG	アルミ製ガラリ	WF	木製三方枠
SF	鋼製三方枠	SSS	ステンレス製シャッター	WW	木製窓
SG	鋼製ガラリ	SS	鋼製重量シャッター	WG	木製ガラリ
SWD	鋼製引き戸	AS	アルミ製シャッター	SWD	鋼製枠木製扉（戸）
LSD		AGS	アルミ製ｶﾞﾗﾘｼｬｯﾀｰ	H	ふすま
FLSD	軽量鋼製防火扉（戸）	CS	耐火クロススクリーン	P	紙障子
LHD	軽量鋼製引き戸	LSS	鋼製軽量シャッター		
FLHD	軽量鋼製防火引き戸	TGD	強化ガラス扉（戸）	PT	可動間仕切り
SSD	ステンレス製扉（戸）	BG	ガラス式防煙壁	TB	トイレブース
SSF	ステンレス製三方枠	ER	ロール式防煙垂壁	SDW	ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞｳｫｰﾙ
SSW	ステンレス製窓	BK	可動パネル式防煙垂壁	TP	トップライト
SSG	ステンレス製ガラリ	NW	鉛入鋼製窓	ACC	ｱｸｾｻﾘｰｶｰﾃﾝ
SSCW	ｽﾃﾝﾚｽ製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ	ND	鉛入鋼製扉（戸）		

仕上略号（本表の他、仕上表共通事項参照）

SOP	合成樹脂調金ペイント	特	特定防火設備
EP	合成樹脂エマルジョンペイント	防	防火設備
DP－FU	常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル（２液）	常開	常時開放式
DP－AS	アクリルシリコン樹脂エナメル（２液）	常閉	常時閉鎖式
DP－PU	２液形ポリウレタン樹脂エナメル	熱感	温度ヒューズ連動
CL	クリヤラッカー	煙感	煙感知器連動
OS	オイルステイン	ハロン	ハロン連動
OSC	オイルステインクリヤ	進入	非常用進入口代用
M－BE	メラミン樹脂系焼付け	排煙	排煙窓
XE－BE	エポキシ樹脂エナメル焼付け		
AE－BE	アクリル樹脂エナメル焼付け	煙	遮煙
UE－BE	ポリウレタンエナメル焼付け	自	自動ドアー
FU－BE	フッ素樹脂エナメル焼付け	PF	飛散防止フィルム
FK	不燃化粧シート貼（枠共）	AT	エアータイト
VB	パイプレーション仕上＋クリア	SAT	セミエアータイト
HL	ヘアライン仕上		

ガラス略号

FL	透明フロートガラス	HPW	熱線吸収線入磨き
F	型板ガラス	HFN	熱線吸収網入型板
PWC	網入磨きガラス	SL	複層ガラス
PWL	線入磨きガラス	L	合せガラス
FWC	網入型板ガラス	T	強化ガラス
FWL	線入型板ガラス	FT	型板強化ガラス
RFL	熱線反射フロート	耐熱T	耐熱強化ガラス
HFL	熱線吸収フロート	TL	低膨張防火ガラス（特防：認定品枠共）
SG	磨りガラス		
KG	曇ガラス	Low-E	低放射ガラス
GB	ガラスブロック	N（）	鉛入ガラス（括弧内は鉛mm当量）
PCS	ポリカーボネートシート	M	鏡
EG	エッチングガラス		

建具金物略号

錠の種類

PD	シリンダー本締り
HL	シリンダー錠
CP	シリンダー箱錠
M	シリンダーモノロック
C	空錠
CL	棒錠
GR	グレモン錠
LI	表示付ラッチ錠
TK	点検錠（開閉ハンドル錠）
PDE	シリンダー本締り（電気錠）
E	電気錠 （T：テンキー） （SS：スイッチストライク） （CR：カードリーダー） （A：自動ドア） （ACR：自動ドア・カードリーダー）

握玉・把手類

LH	レバーハンドル
CH	ケースハンドル
PB	把手
PW	押板・把手
ND	握玉
HH	握込引手（SUS製）
PT	プッシュ式つまみ
PP	プッシュプル錠

材質略号

S	鋼
SUS	ステンレス
AL	アルミ
W	木製

支持金物

PH	ピボットヒンジ
H	丁番
FH	フロアーヒンジ
AHS	オートヒンジストッパ有
AHN	オートヒンジストッパ無
GH	グラビティヒンジ
SH	点検口用スプリングヒンジ
HR	ハンガーレール
DC	ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ
DCS	ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ ｽﾗｲﾄﾞ有
DCN	ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ ｽﾗｲﾄﾞ無
DCC	ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ ｽﾘｰﾌﾞ付
DCSC	ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ ｽﾗｲﾄﾞ有 ｽﾘｰﾌﾞ付
DCNC	ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ ｽﾗｲﾄﾞ無 ｽﾘｰﾌﾞ付
自閉	自閉式

その他金物

DS	ドアストッパー
F	フランス落し
JT	廊下製壁器（扉内収納型）
FD	ファイヤーダンパー
UC	アンダーカット
ZT	ゼロオートマチックタイト
DB	自動昇降式バッキング（扉内蔵）
AF	自動フランス落し（枠内埋込型）
KP	ステンレスキックプレート t 1.5 H300
FS	フットスイッチ
DE	自動ドアエンジン
付	付属金物一式

施錠方法

（１）　○　か　ぎ　／　○　か　ぎ
（２）　○　か　ぎ　／　△　サムターン
（３）　○　か　ぎ　／　×　かぎなし
（４）　▽　サムターン　／　×　かぎなし
（５）　×　／　×　かぎなし

動備工事との区分

項　目	建築工事範囲	電気工事
防　火　戸	本体（自動閉鎖装置の切り込み・補強とも）	自動閉鎖装置・連動制御装置・感知器
上部電動式シャッター	本体・制御盤・手動開閉装置・ヒューズ装置	連動制御装置・感知器
排　煙　窓	本体・自動開放装置	連動制御装置・感知器
防 煙 た れ 壁	本体・駆動装置	連動制御装置・感知器
自　動　扉	本体・駆動装置・制御装置・検出装置	手許電源スイッチ
電　気　錠	本体・扉内配管配線	扉までの配管配線
マグネットセンサー	取付台座・切り欠き	本体・配管配線

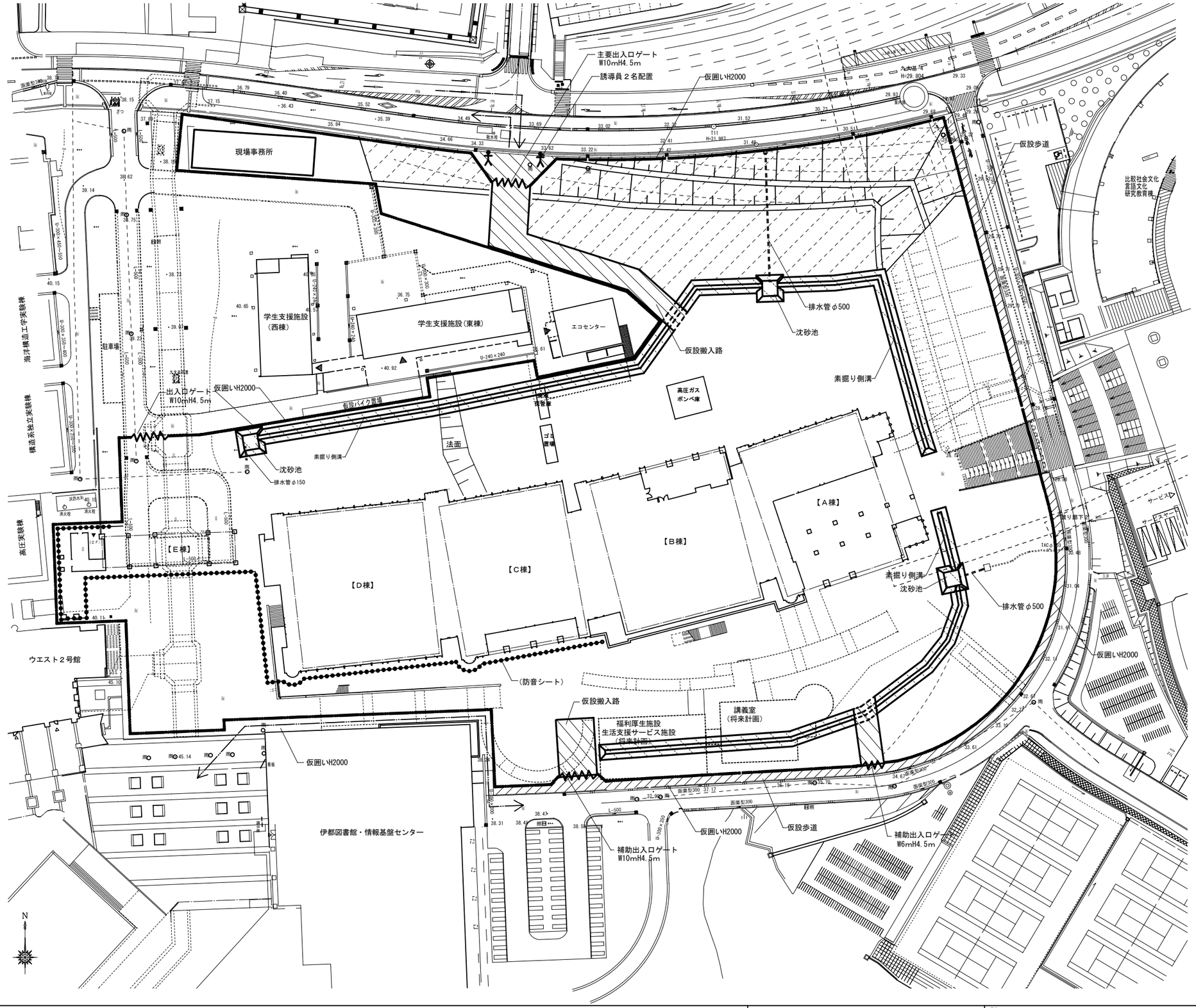
特記事項

（１）　AWは特記以外　面西一納まりタイプとする。
（２）　複層ガラスは建設地の気圧条件を十分考慮した製作を行う。気圧差によりガラスが変形した場合は無償で交換すること。
（３）　強化ガラスを使用する場合は、小口の保護、ヒートソーク処理を行う。海外製品を使用する場合は、製負者は同処理に立会い、その検査報告書を監理者に提出し、承認を受けること。
（４）　完成後、原因不明又は異物混入などにより自然破壊した場合は、無償で交換する。この場合の保証期間は10年とする。

防音仕様（SD・LSD）
ＡＴ　：遮音等級　Ｔ－３
ＳＡＴ：遮音等級　Ｔ－２

防音仕様（LHD）
ＡＴ　：気密等級　Ａ－４
ＳＡＴ：気密等級　Ａ－３

九州大学施設部	工事名	九州大学(伊都)総合研究棟(理学系)新営 その他工事	縮尺 N.S.
	図面名	建具共通事項	日付 H25.3
	図面番号	D－612	



凡　例

工　　種	図　例	記　号	名　　称	備　　考
仮設工				
			盛土範囲	建築掘削土による盛土 わら芝養生を行う
			仮設搬入路	W6m，10m 砕石敷き
			素掘り側溝	H=200～600　ﾌﾞﾙｰｼｰﾄ張り
			沈砂池	H=1800　板柵桝
			排水管	波状管（ダブル構造）φ500
			仮囲い	H2000
			出入口ゲート	H4500
			工事車両動線	
			施設出入口	
			仮設歩道	W2.0m ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装 30/100
			歩行者動線	

濁水放流基準

SS濃度	100PPM（mg/L）以下
ＰＨ	5.8以上　8.6以下

※　沈砂池にて、ＰＨ管理及び沈降剤による濁水処理を行い、排出水の管理を行うこと。
沈砂池の位置については、工事の進捗により、適時調整するものとし
堆積物等により沈砂機能が低下しないように管理すること

注記）　新たに法面となった範囲は、わら芝養生とすること

◆◆◆◆◆　左記の範囲において、足場を設置する場合は
防音シートにて囲うこと

九州大学施設部	工事名　九州大学（伊都）総合研究棟（理学系）新営　その他工事	縮尺　1/500(A1) 1/1000(A3)	図面番号　仮－００２
	図面名　仮設計画図２（建設時）	日付　H25.3	

６章　コンクリート工事　　本章はＪＡＳＳ５（２００９年版）に準拠する。＜　＞内にＪＡＳＳ５における項目番号を示す。

① コンクリートの計画調合
＜３．１＞～＜３．１０＞
＜４．１＞～＜４．　５＞
＜５．１＞～＜５．１１＞

※コンクリートの種類、品質基準強度、セメントの種類、スランプ、単位水量、混和剤等は下表による。（品質基準強度Fqは、FdとFcの大きい方とする。）

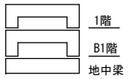
指定	使用箇所	使用骨材によるコンクリートの種類	セメントの種類	計画供用期間の級（耐久設計基準強度Fd(N/mm2)）	設計基準強度 Fc(N/mm2)	品質基準強度 Fq(N/mm2)	スランプ(cm)	単位水量の最大値(kg/m3)	特殊なコンクリートの適用	強度管理の材齢	混和剤・混和材
⊙	場所打コンクリート杭	※普通 ・＿＿	※高炉セメントB種 ・普通ポルトランドセメント ・＿＿	／ ※＿＿	※＿＿	※＿＿	※ 18 ・＿＿	※ 185 ・＿＿	⊙水中コンクリート ・＿＿	※ 28日 ・＿日	※AE減水剤 ・＿＿ ・＿＿ ・＿＿
⊙	基礎・地中梁	※普通 ・＿＿	※高炉セメントB種 ⊙中庸熱ポルトランドセメント ・普通ポルトランドセメント	・超長期 (Fd36) ・長期 (Fd30) ・標準 (Fd24) ・短期 (Fd18)	※ 24	※ 24	※ 15	※ 175 ・＿＿	⊙ マスコンクリート ・＿＿	※ 28日 ・＿日	⊗AE減水剤 ⊙防水材 ・高性能AE減水剤・＿＿
⊙	1階床 2 階～ PHR 階	※普通 ・＿＿	※普通ポルトランドセメント ・＿＿		※ 24	※ 24	※ 18	※ 170 ・＿＿	・＿＿ ・＿＿	※ 28日 ・＿日	※高性能AE減水剤 ・＿＿ ・AE減水剤 ・＿＿
⊙	CFT充填コンクリート 1 階～ PHR 階	※普通 ・＿＿	※普通ポルトランドセメント ⊙ 図示		※ 60	※ 60	※ 図示	※ 図示	⊙鋼管充填コンクリート ・＿＿	※ 28日 ・＿日	※高性能AE減水剤・＿＿ ・AE減水剤 ・＿＿
・	土間コンクリート	※普通 ・＿＿	※普通ポルトランドセメント ・＿＿	／	※＿＿	※＿＿	※ 12 ・＿＿	※ 170 ・＿＿	・＿＿ ・＿＿	※ 28日 ・＿日	※AE減水剤 ・＿＿ ・＿＿
⊙	無筋コンクリート（押えコンクリート等）	※普通 ・＿＿	※普通ポルトランドセメント ・＿＿	／	※＿＿	※ 18 ・＿＿	※ 15 ・＿＿	※ 185 ・＿＿	・＿＿ ・＿＿	※ 28日 ・＿日	※AE減水剤 ・＿＿ ・＿＿
⊙	捨コンクリート	※普通 ・＿＿	※高炉セメントB種 ・＿＿	／	※＿＿	※ 18 ・＿＿	※ 15 ・＿＿	※ 185 ・＿＿	・＿＿ ・＿＿	※ 28日 ・＿日	※AE減水剤 ・＿＿ ・＿＿
⊙	外構 簡易コンクリート	※普通 ・軽量＿種	※普通ポルトランドセメント ・＿＿	・超長期 (Fd36) ・長期 (Fd30) ・標準 (Fd24) ・短期 (Fd18)	※＿＿	※ 24	※ 15	※ 175 ・＿＿	・＿＿ ・＿＿	※ 28日 ・＿日	・＿＿ ・＿＿ ・＿＿ ・＿＿
・		※普通 ・軽量＿種	※普通ポルトランドセメント ・＿＿	・超長期 (Fd36) ・長期 (Fd30) ・標準 (Fd24) ・短期 (Fd18)	※＿＿	※＿＿	※＿＿	※＿＿	・＿＿ ・＿＿	※ 28日 ・＿日	・＿＿ ・＿＿ ・＿＿ ・＿＿

※調合監理強度（Fm）は、品質基準強度（Fq）に構造体の強度補正値（28S91）を加えた値以上とする。【Ｆｍ＝Ｆｑ＋28Ｓ91】

セメントの種類	予想平均気温θの範囲（℃）		暑中コンクリート
普通ポルトランドセメント	8≦θ	0≦θ＜8	
中庸熱ポルトランドセメント	11≦θ	0≦θ＜11	
高炉セメントＢ	13≦θ	0≦θ＜13	
構造体の強度補正値（28Ｓ91）	3N/mm2	6N/mm2	6N/mm2

※使用するコンクリートは、ＪＩＳ Ａ ５３０８に適合するコンクリートまたは建基準法第３７条認定品を原則とする。
※所定空気量の目標値は普通コンクリートで4.5%、軽量コンクリートで5%とする。
※コンクリートに含まれる塩化物量は塩化物イオン（Cl⁻）量で0.30kg/m3）以下とする。(計画供用期間の級が長期・超長期の場合は0.20kg/m3以下とする。)
・品確法に基づくスランプ規定の適用
　・コンクリート強度が33N/mm2未満の場合は18cm以下、33N/mm2以上の場合は21cmとする（劣化等級3.2）
　（同等の材料分離抵抗が認められないものにあっては、この限りではない）
・品確法に基づく水セメント比規定の適用（主要構造部への適用）
　・50%（45%）以下　（劣化等級3）
　・55%（50%）以下　（劣化等級2）
　（　　）内の数値は軽量コンクリートの場合を示す。

※骨材はアルカリ骨材反応を生じる恐れのないものとする。
（計画供用期間の級が超長期の場合は化学法で判定すること。）
※使用箇所の階表示は右図による。



※計画供用期間の級の水準は下表による。

級	大規模補修不要期間	供用限界期間	耐久設計基準強度 Fd
超長期	約200年	―	36N/mm2以上
長期	約100年	―	30N/mm2以上
標準	約 65年	約100年	24N/mm2以上
短期	約 30年	約 65年	18N/mm2以上

※かぶり及び鉄筋の定着長に関して、必ず施工前に係員の承諾を得ること。
※計画供用期間の級が（※長期、超長期・標準以上・短期以上）の場合は以下を堅守すること。
　・コンクリートの乾燥収縮率（※8.0×10⁻⁴・＿＿＿＿）以下とする。
　・コンクリートのひび割れ幅（※0.3mm ・＿＿＿＿）以下とする。
　・コンクリートの打重ね時間（※60分　・＿＿＿＿）以内とする。
　・せき板存置期間に必要な圧縮強度（※10N/mm2 ・＿＿＿＿）以上とする。
※管理値が、重複して存在する場合は、もっとも厳しい管理値を採用する。
・圧縮強度に対して算定されるヤング係数の80%以上であることを確認すること。ただし、使用するコンクリートまたは類似の材料・調合のコンクリートのヤング係数の試験結果がある場合は、試験を省略することができる。試験練りの供試体の応力－ひずみ曲線から算出する。
※防水材は設備配管ピットの周囲の躯体（上部床は含まない）に配合とする。
※竣工後コンクリートに著しいひび割れが生じた場合は、施工業者により調査し、必要に応じて補修を行うこと。その場合、外壁等で雨水の浸透の恐れが有る部分には、伸縮性がある水性ポリマー樹脂を使用する。
※コンクリートのひび割れ対策は日本建築学会「鉄筋コンクリート造のひび割れ対策（設計・施工）指針・同解説」による他、下記による。

② コンクリートのひび割れ

⊙地上部分のコンクリートの単位水量を（※170 ・＿＿＿＿）kg/m3以下とする。（本章１項の表参照）
⊙鉄筋規準図７－７（１）による各階出隅入隅部の床版の補強を行う。
・鉄筋規準図７－７（２）による床版の補強を行う。適用部位は図示による。
⊙（※鉄筋規準図８－７・図示）による外壁の補強を行う。
⊙鉄筋規準図１１項による亀裂誘導目地を設ける。
⊙収縮帯を設ける。　（位置・巾・後打コンクリートの仕様等は図示による）
・膨張材の使用。　（本章１項の表参照）
・外壁の型枠としてPC版等を使用する。　（仕様、納まり等は図示による）
・床にPC合成スラブを用いる。　（仕様、納まり等は図示による）
・土間コンに所定の目地切りを行う。（位置、仕様は鉄筋規準図７－９による）
⊙棒状の振動機、型枠振動機を用いて十分なコンクリートの締め固めを行う。
⊙打込後のコンクリートは7日以上、散水・噴霧・養生マット等による被覆等により湿潤養生を行う。
⊙外壁の型枠を2週間以上存置する。2週間以上の存置が不可能な場合は6日以上存置し、型枠の脱型後直ちにビニールシートを密着させ、なるべく長期間設置し、壁から水分の急激な蒸発を防ぐ。
⊙骨材を石灰石または花崗岩とする。
※地下室で土に接する部分の打継ぎ部分に止水板を用いる。
　止水板の仕様（早川ゴムスパンシールRGSタイプ　幅290mm　）
※水平打ち継部は高圧洗浄等によりレイタンスを除去する。

③ コンクリートの打継ぎ　＜７．８＞

※柱、壁のコンクリート打設は縦形フレキシブルシュート等を使用する。

④ コンクリートの打込み　＜７．５＞

⑤ 型枠　＜９節＞（標準仕様書６．９．１～６．９．６）

※本項に限り、ＪＡＳＳ５ ９節の他、共通仕様書６．９．１～６．９．６を適用する。
※コンクリートの型枠等は下表による。
※型枠の存置期間は、建設省告示１１０号によること。

仕上面	適用	適用箇所	型枠の種別	板厚(mm)	図示のない場合の打増し厚さ)
A種	・	一般部化粧打放し（打放し補修仕上剤併用）	※型枠用合板表面加工品 ・型枠用合板 A-B,A-C ・図示による ・＿＿	・12 ※15	外壁・内壁のかぶり厚さは、鉄筋規準図「11. ひび割れ誘発目地」による。
	・	＿＿部化粧打放し（打放し補修仕上剤併用）	※型枠用合板 A-B,A-C ・図示による ・＿＿	・12 ※15	
	⊙	上記を除く、下記注1）のA種仕上箇所	※型枠用合板表面加工品 ・図示による ・＿＿	⊙12 ※15	
B種	⊙	下記　注1）のB種仕上箇所	※型枠用合板 B-C ・図示による ・＿＿	⊙12 ※15	
C種	⊙	下記　注1）のC種仕上箇所	※型枠用合板 B-C ・図示による ・＿＿	⊙12 ※15	
特殊	・	・＿＿＿＿	・＿＿＿＿	・＿	外部＿内部＿
	・	・＿＿＿＿	・＿＿＿＿	・＿	外部＿内部＿

注１）コンクリート仕上がり面の種別は下記による。
　A種：目違い、不陸等の極めて少ない良好な面とし、化粧打放し、クロス張り、粘着剤付ビニルシート張り又は塗装仕上程度を施すコンクリート表面に適用する。
　B種：目違い、不陸等の少ない良好な面で、グラインダー掛け等により平滑に調整されたものとし、仕上塗剤又は防水仕上程度を施すコンクリート表面に適用する。
　C種：打放しのままで、目違い払いを行ったものとし、上記A種・B種以外の仕上個所に適用する。タイル仕上の場合は躯体処理の有無に拘らずC種とする。
注２）断熱材兼用型枠の適用は１９章内装工事による。

６．受入時の試験・検査（標準仕様書６．１０．１～６．１０．６）

※受入時の試験・検査は表６．１０．１及び表６．１０．２により行う。
※試験機関は「建築物の工事における試験及び検査」に関する　（表６．１０．１）
　東京都取扱い要綱」の第４条の条件を備えた機関とする。　（表６．１０．２）
・単位水量を管理する。
管理目標値と設計値の関係および運用方法はＪＡＳＳ５解説表１１．１０による。

⑦ 寒中コンクリート 暑中コンクリート ＜１２節＞ ＜１３節＞

※寒中コンクリート及び暑中コンクリートの適用期間等は下表による。

指定	コンクリートの種類	適用事項	混和剤
・	寒中コンクリート	＿月＿日～ ＿月＿日	※本章１項による 1)
⊙	暑中コンクリート	7 月 1 日～ 9 月 12日	※本章１項による 1)

注１）気温の状態により、寒中時の混和剤は促進形、暑中時の混和剤は遅延形を用いる。
・暑中コンクリートにおいて以下を満足する場合、係員の承諾を得て
　28Ｓ91=3N/mm2とすることができる。
　イ．打込み時のコンクリート温度を35℃以下とする。（全量管理を行うこと。）
　ロ．コンクリートの圧縮強度管理は、本コンクリートを打設した構造躯体から採取した91日材齢コア強度、又はこれに準ずる方法で管理を行うこと。
　ハ．上記イ、ロを含む暑中コンクリート施工計画書を提出し、係員の承諾を得ること。

８．軽量コンクリート ＜１４節＞

※軽量コンクリートの使用箇所及び種別は本章１項による。
※単位容積重量（＿＿＿＿ kN/m3）
※その他調合に関する特記（※本章１項による　・下記による　・図示による）

９．流動化コンクリート ＜１５節＞

※流動化コンクリートの使用箇所（※本章１項による　・＿＿＿＿）
※スランプの指定（・本章１項による　※ベース＿＿cm、流動化後＿＿cm）
※流動化剤の投入場所（※工事現場　・レディミクストコンクリート工場）
その他調合に関する特記（※本章１項による　・下記による　・図示による）

１０．高流動コンクリート ＜１６節＞

※本項で記載された内容は、本章１項に優先する。
※高流動コンクリートの使用箇所（※本章１項による　・＿＿＿＿）
※調合等は、各レディミクストコンクリート工場で取得した大臣認定仕様によるが、原則として下記条件を満足すること。
※スランプフロー値（※60cm　・＿＿cm）
※セメントの種類（※中庸熱ポルトランドセメント　・低熱ポルトランドセメント
　・高炉セメントB種　・＿＿＿＿）
※強度管理の材齢（※ 28日　・＿＿日）
※水結合材比（混和材が無い場合は水セメント比）の最大値（※50%　・＿＿%）
※単位水量の最大値（・本章１項による　※170kg/m3　・＿＿＿ kg/m3）
※試練り時におけるコンクリートのヤング係数の測定（※行う　・行わない）
その他特記事項（・下記による　・図示による）

１１．高強度コンクリート ＜１７節＞

※本項で記載された内容は、本章１項に優先する。
※高強度コンクリートは、設計基準強度36N/mm2を超えるコンクリートに適用する。
※調合等は、各レディミクストコンクリート工場で取得したＪＩＳ又は大臣認定仕様によるが、原則として下記条件を満足すること。
※セメントの種類（※中庸熱ポルトランドセメント　・低熱ポルトランドセメント
　・高炉セメントB種　・＿＿＿＿）
※スランプまたはスランプフロー値の指定
　36＜Fc＜45N/mm2の場合（※スランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下
　　・スランプ　＿＿cm　・スランプフロー　＿＿cm）
　45≦Fc≦60N/mm2の場合（※スランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下
　　・スランプ　＿＿cm　・スランプフロー　＿＿cm）
※強度管理の材齢（※28日　・＿＿ 日）
※水結合材比（混和材が無い場合は水セメント比）の最大値（※50%　・＿＿%）
※単位水量の最大値（・本章１項による　※170kg/m3　・＿＿＿ kg/m3）
※試練り時におけるコンクリートのヤング係数の測定（※行う　・行わない）
※試練り時におけるコンクリートの単位容積重量の測定（※行う　・行わない）
その他特記事項（・下記による　・図示による）

１２．鋼管充填コンクリート ＜１８節＞

※コンクリートの施工は（⊗圧入工法⊙落とし込み工法　・＿＿＿＿）とする。
※コンクリートのブリージング量は（※0.1cm3/m2 ・＿＿＿＿）以下とする。
※コンクリートの沈降量は（※2.0mm ・＿＿＿）以下とする。
※スランプフロー値（※60cm ・＿＿）とする。

１３．マスコンクリート ＜２１節＞

※本項で記載された内容は、本章１項に優先する。
※マスコンクリートの使用箇所（※本章１項による　・ ＿＿＿＿ ）
※スランプは15cm以下を標準とする。ただし、高性能AE減水剤または、流動化剤を用いる場合は18cm以下とすることができる。
※セメントの種類（※中庸熱ポルトランドセメント　・低熱ポルトランドセメント
　・高炉セメントB種　・＿＿＿＿＿＿　）
※強度管理の材齢（※56日 ⊙ 28日）
※本章１項で規定した混和剤の種類（※遅延形　・標準形）
※荷卸し時のコンクリートの温度　（※35℃以下　・＿＿℃以下）
※打込後のコンクリートの表面温度、内部温度、外気温の測定（※行わない　・行う）
その他特記事項（・下記による　・図示による）

１４．水中コンクリート ＜２４節＞

※水セメント比の最大値（※55%　・＿＿%）
※単位セメント量の最小値は下記による。
　※場所打コンクリート杭（※340kg/m3　・　＿＿ kg/m3）
　・地中連続壁　　（※360kg/m3　・　＿＿ kg/m3）
その他特記事項（※本章１項による　・下記による　・図示による）

１５．その他のコンクリート ＜１９節＞＜２０節＞ ＜２３節＞＜２４節＞ ＜２５節＞＜２６節＞ ＜２７節＞＜２８節＞

※適用するコンクリート

適用	特殊なコンクリート	適用箇所	備　考
・	プレストレストコンクリート	※本章１項による ・図示による	詳細は図示による。
・	プレキャスト複合コンクリート	※本章１項による ・図示による	詳細は図示による。
・	水密コンクリート	・本章１項による ※水槽・プール・地下室等圧力水が作用するコンクリート	スランプ　18cm以下 空気量　4.5%以下 水セメント比 50%以下
・	海水の作用を受けるコンクリート	・本章１項による ※海水に接するコンクリート及び海岸から（※100m ・＿＿m）以内にある建物のコンクリート	水セメント比の最大値は、表２４．３による かぶり厚さの最小値は、表２４．３による 特殊な鉄筋の使用は特記による。
・	凍結融解作用を受けるコンクリート	・本章１項による ※凍結融解作用に対する耐久性を特に必要とするコンクリート	性能区分(A～C)に応じた骨材の品質及び調合は、表２６．２による。
・	遮蔽用コンクリート	・本章１項による ※ガンマ線や中性子線等の放射線を遮蔽するコンクリート	スランプ　18cm以下 水セメント比 55%以下 品質管理の検査項目 ＿＿＿＿ ＿＿＿＿ 放射線漏洩検査 ・行う　・行わない
・	エコセメントを使用するコンクリート	※本章１項による ・図示による	詳細は図示による。
・	再生骨材コンクリート	※本章１項による ・図示による	詳細は図示による。

その他特記事項（※本章１項による　・下記による　・図示による）

１６．構造スリット

※構造スリットの位置は構造図による。
※構造スリットの仕様は建築図による。

１７．品質管理 ＜１１節＞

・かぶり厚検査は以下による。
　・ＪＡＳＳ５ １１．１０節による。
　・（※10%　・　　）の部材に対し、非破壊検査を行う。
　　抜き取り方法、検査方法、合否判定等はＪＡＳＳ５による。

１８．品確法に基づく施工計画の指定

劣化対策等級に応じた各施工条件を満足すること。
・打込み締め固め方法
　コンクリートが均質かつ密実に充填され、所要の強度と耐久性を有し、有害な打込み欠陥部の無い構造体コンクリートが得られるように行う。（JASS5-7節）
・打ち継ぎ部の処理
　レイタンスや脆弱なコンクリートを取り除き新たに打込むコンクリートと一体となるように処置する。（JASS5-7節）
・養生方法
　急激な乾燥、過度の高温または低温の影響、急激な温度変化、振動及び外力の悪影響を受けないようにする。（JASS5-8節）